

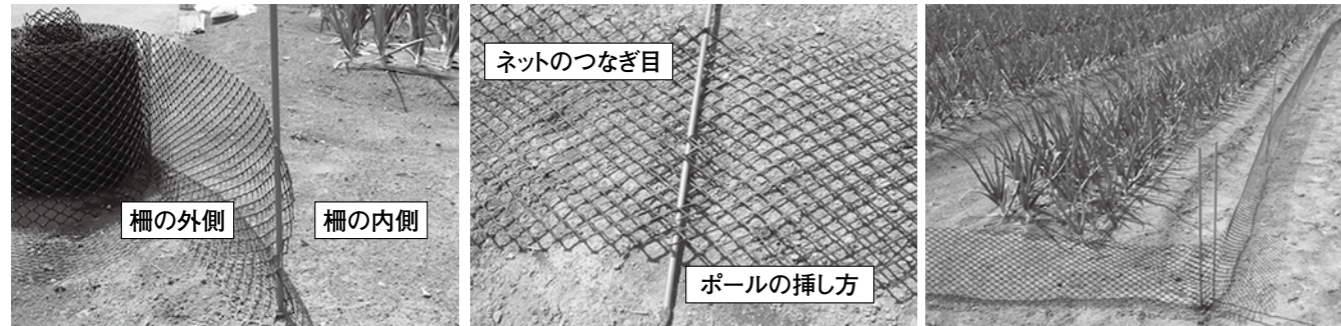
秩父地域鳥獣害対策協議会協力

3 設置方法

(1) ネットを張る

支柱の間隔は2mを目安に設置します。ただし、変形した畑や段差、傾斜では余分に資材が必要になり、角部には力がかかるため補強が必要になります。

柵の外側に、ネットの内側がくるよう設置(ネットの反りが柵の外側を向くようにする)します。ネットの継ぎ目は重ねて支柱でつなぎます。畑の形状に沿って、ピンと張っていきます。



※ネットは表裏が有り、向きが重要です!

角部が動かないよう、しっかり設置

(2) 通電線の設置

- 通電線 (リボンワイヤー：約1cm幅のもの) を支柱に取り付けます。
- ネットとリボンワイヤーの間は5cm (地面から通電線までの高さが37~38cmが理想) にしてください。広いとすき間をもぐってしまいます。

※止め方の目安としてはネットと通電線の間隔が広がらないよう、結束バンドで支柱間を3カ所程度、約50cm程度の間隔で設置します。



結束バンドは、1スパンに3カ所程度



電気柵本体は柵内に設置

4 ポイントを守って効果のある電気柵の設置!

約束を守って100%の効果を!

(1) 設置した日に必ず通電!

初めてできた障害物(電気柵)を見た動物が、それが安全なものなのかを探査する時に、いかに感電させられるかがポイントです (最初はすごく警戒する)。

収穫終了後も、柵を片付ける日まで24時間通電!

探査したときに感電しないと、「電気柵だ」と認識しなくなる場合があります。設置当日に必ず通電してください。

「収穫物が無いから」と通電していないと、柵に慣れて次作や翌年作で柵の効果がなくなる場合があります。

動物は明け方や夕方でも動きます。スイッチを「昼夜切り替え」にすると、動物の侵入時に通電していない場合があります。

(2) 漏電しないよう、雑草管理はこまめに!

通電線に雑草が当たっていると、漏電して電気が弱かったり、電気が通っていない場合があります、電気柵の効果がなくなります。

栽培しているカボチャなどのツルや葉も、通電線に当たっている場合があるので注意してください。

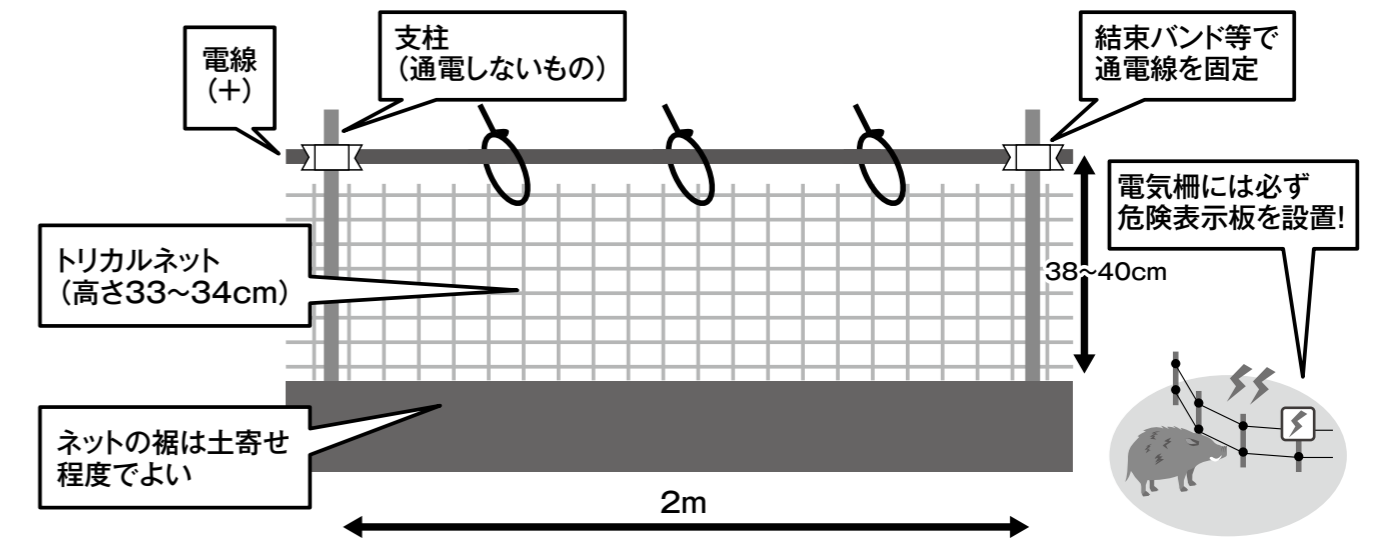


中型動物の農作物被害防止柵

埼玉県農業技術研究センター
生産環境・安全管理研究担当 鳥獣害防除研究チーム 協力



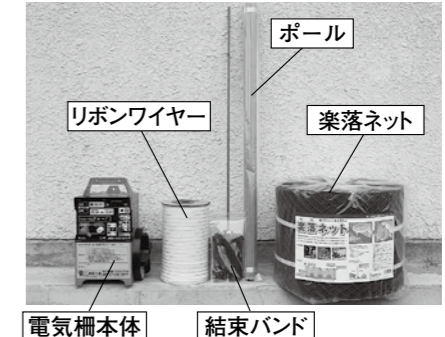
<対象動物>
アライグマ・ハクビシン・タヌキ・アナグマなど中型動物やイノシシ



1 設置に必要な資材 (100m設置する場合の目安)

平らで四角形の畑の目安数字なので、不整形や傾斜畑では、2割程度多めに準備した方が良いです。

楽落ネット (33cm×50m)	2個
グラスファイバーポール (直径8~10mm:角部3本・入口2本)	60本
結束バンド (150mm)	200本
リボンワイヤー (約1cm幅)	100m
電気柵本体 (出力周期が1.0~1.3秒のものが理想)	1台



2 設置準備

柵を張る位置の外周を測り設計計画を立てる

- 柵の外側に、人が歩いて通れる管理道を必ずつくってください。畑の境界ぎりぎりまでの柵は、設置しても侵入されやすくなります。
- 中の作物と柵の間は最低50cm以上離してください。
- ネットと地面にすき間ができないよう、あらかじめ凹凸をならしておきます。